

令和 7 年度 年間業務報告書

株式会社南紀白浜エアポート

2026 年 3 月 31 日

空港運営 7 年目となる当期も事業計画（大枠では①空港活性化、②維持管理、③安全・保安の 3 項目に関する計画）に沿って以下のとおり事業を実施しました。

① 空港活性化に関する計画

- ・目標旅客数は 25.0 万人で、定期便では過去最高の 24.1 万人でチャーター便を含むと 24.3 万人の利用がありました。
- ・航空需要を高めるため、新設された白浜町東京事務所と連携し都市部企業向けワークショップセミナーを開催、リコー、パソナなどの企業への個別営業を実施しました。
- ・都市部企業の受入手配や受入体制づくりとして着地型旅行事業を行いました。
JAL や川崎重工業の出張手配や NTT グループのリーダーシップ研修や泉佐野市役所などの若手職員研修などの受入を実施しました。
- ・観光需要の底上げのため、大阪関西万博の来場者向けイベントで和歌山の魅力紹介や東京八重洲 POTLUCK AWARD2025 でのイベント講演、首都圏の旅行代理店向け商談会で約 20 社にプロモーションを実施しました。
- ・インバウンド向けには、万博推進課と連携したインバウンド向け高野山 FAM ツアーで JICA 研修プログラムを受け入れ、中央アジア諸国の観光官僚や関係者へ和歌山の魅力を発信しました。
- ・地元からの航空需要の喚起策として、800 名以上に対して空港バックヤードツアーを開催し、空港を身近に感じ、より親しんでもらう機会を設け潜在需要を創出しました。
- ・地域での空港プロモーションとしてインスタグラムを活用し約 40 件の情報を発信したり、田辺市神島高校で空港の取り組みの紹介、関西ニュービジネス協議会で和歌山市の企業向けにワークショップを紹介しました。
- ・エアライン誘致の強化策として毎年チャーター便運航している FDA には誘致営業を継続しました。1 月には富士山遊覧飛行の企画・販売を行い、和歌山県をはじめ地元メディアや旅行代理店と連携して全席を完売、当日の受入やイベント運営を実施しました。また、国際チャーター便誘致の一環として白浜町と連携して台湾などへのトップセールスによるプロモーションを支援しました。
ビジネスジェット便の誘致に向けたプロモーション活動では、富裕層向けのプライベートジェットのリムジン横付けサービスや高付加価値特別ツアーを紹介しました。

②維持管理に関する計画

- ・日常の維持管理については、日常点検、巡回点検、緊急点検（地震・台風等の天災発生直後に実施する点検）を適切に実施し、検知された損傷を SOCOCA（巡回点検支援システム）に点検毎に随時記録し、補修、修繕が必要であれば緊急修繕を実施しました。更に、要補修か経過観察かの判断に迷う場合は、技術専門家に相談及び対応工法を検討

後、必要に応じ随時補修を実施しました。毎年継続的に実施が必要な工事等については、その頻度や箇所等を継続的に見直し続けることで規律ある維持管理を実施しました。

- ・更新工事については、和歌山県空港部局及び工事部局と工事状況にあわせ、随時協議を実施し、今年度予定工事は円滑に実施しました。
- ・新技術の導入推進（空港 DX の推進）については、雑草管理ロボット（草ふみロボット）を使用した実証実験や、映像解析技術を用いた障害物検知業務の効率化・高度化を図る実証実験を実施しました。

③安全・保安に関する計画

- ・セーフティ・セキュリティの両面において安全確保に努め、制限区域内の死傷者ゼロ、航空機損傷事故ゼロ、空港ビル・クリーンエリアへの不法侵入事案発生件数ゼロでした。
- ・空港スタッフ一体となった安全・保安意識の増強に努め、空港委員会（セーフティ）や空港保安委員会（セキュリティ）を適時実施しました。
- ・空港消防業務の維持・強化を図るため、適時点検を実施しました。
- ・訓練については、航空機不法奪取訓練、航空機事故消火救難訓練、不法侵入事案対応訓練、航空機事故応急対策訓練を計画的に実施しました。
- ・3層の視点からのモニタリングにより、安全保安に関する業務品質の維持・改善に努めました。3層とは、日常業務管理、内部モニタリング、外部有識者を加えた外部モニタリングで継続的に実施し、空港の安全安心を継続的に担保しています。
- ・リスク管理会議を毎月1回開催し、ハザードを見極め、リスク評価し、改善・予防措置を実行しました。

以上